ご存知ですか・・

「高坂」の生立ち（歴史）を

これは、高坂学区の機関紙「広報高坂」に平成２３年１月号（３２９号）から平成２３年９月号（３３７号）まで掲載されたものです。

平成２３年９月
高坂学区連合自治会

目　　次

はじめに　平成２３年１月号・・・・・２
　　１、　高坂とその周辺の昔

パート２　平成２３年２月号・・・・・４
　　１、　高坂とその周辺の昔（その２）

パート３　平成２３年３月号・・・・・６
　　２、　島田黒石の開発

パート４　平成２３年４月号・・・・・８
　　３、　市営島田住宅団地の建設

パート５　平成２３年５月号・・・・１０

パート６　平成２３年６月号・・・・１２
　　４、天白区の独立から現在－天白区の誕生－

パート７　平成２３年７月号・・・・１４

パート８　平成２３年８月号・・・・１６
　　〇高坂地名の由来

最終回　　平成２３年９月号・・・・１８
　　〇高坂からの眺望

広報高坂　平成２３年１月号

ご存知ですか・・

「高坂」の生立ち（歴史）を

―――はじめに―――

高坂が開かれましてより４０数年が経ちました。中高年の人にとっては第２の故郷、若い人にとっては、それこそ故郷の地でありましょう。この地を愛し、終のすみかとする人々にとりましては有益であろうと今回記事に致し寄稿致しました

小出　明美

１、高坂とその周辺の昔

この地は雑木材の低い山並・丘陵が続き、江戸時代初期は鷹狩りの猟場で、キジ・野兎・鹿等が住む地でありました。

その名残が御前（膳）場で、殿様が休憩時食事された場所であったことに由来しております。

この地の地質は余り良くなく、杉や桧のような

良材は育たず島田黒石の地名が示す如く、表土は黒い石ころ（チャート）、下は粘土層で、この地層は平針から鳴海一帯に広がり今も地名に残っております。

村落は天白川添いに古墳時代より平針、植田、島田、野並に点在し稲作主体の農業を営んでいたが堤防は今より極めて低く大雨洪水の度に流水浸水の被害をうけ、住民はより高い場所へと移転を余儀なくされました。又、天白川も幾度となく川筋を変えることになります。本格的な治水工事は明治時代の中頃より順次行なわれ流路も現在の姿に固定されてまいりました。

以下、２月号へのご紹介となります。お楽しみ頂ければ幸いです。

広報高坂　平成２３年２月号

ご存知ですか・・

「高坂」の生立ち（歴史）を

－－－パート２－－－

１、高坂とその周辺の昔（その２）

街道は江戸初期の名古屋開府（1610 年）より整備が進められました。名古屋城を起点とする平針街道は、平針より分岐して信州飯田への街道は濃尾平野の物産、とりわけ生活に不可欠の塩の道となりました。

一方、岡崎への街道は有事の軍用道路であり、東海道のバイパスとして姫街道と呼ばれ参勤交代の道でもありました。

天白区内で最も古い神社は古代東海一の豪族尾張(治)氏ゆかりの針名神社、仏閣は秋葉 山慈眼寺で平安時代初期より存在致しました。その他の寺院は仏教の大衆化により曹洞宗を始めとする禅宗、法然・親鸞を始祖とする浄土系のお寺が鎌倉、室町時代に建立され、１５世紀中半の島田

地蔵寺もその一つであります。
　次回は島田黒石の開発についてお話しさせて頂きます。

小出　明美

広報高坂　平成２３年３月号

ご存知ですか・・

「高坂」の生立ち（歴史）を

－－－パート３－－－

２、島田黒石の開発

長い眠りにあった黒石の地に開発の手が入ったのは、昭和の初期でありました。三重県桑名の有力者、松本繁一氏が関東の軽井沢をモデルに松和花壇の地に別荘地を作り、八事より道中五米の道路を設け、松本住宅として貸別荘八十戸を建てました。そして市内の有力な実業家、商人に貸出したのは昭和七年で、洋風レストラン、ダンスホールを備え、又近くには競馬場もあって、眺望のすばらしい山中の社交場、保養地、歓楽街としてにぎわいました。

しかし満州事変、日支事変の戦火と共にしだいに衰退し、名古屋師団の陸軍将校（幹部）のクラブとして使用された時

期もございました。

大戦により焦土と化した名古屋市は全国に先がけ近代的な都市整備を行いました。

先ず墓地の移転（平和公園）、次に道路の拡張整備（百米道路等）を実施致しました。一方公営の復興住宅を旧練兵場の城北を始め市周辺に建設致しました。その一つが一つ山住宅でございます。

次回より、いよいよ市営島田住宅団地「高坂荘」建設へのご案内となります。

小出　明美

広報高坂　平成２３年４月号

ご存知ですか・・

「高坂」の生立ち（歴史）を

－－－パート４－－－

３、市営島田住宅団地の建設

昭和も三十年代に入りまして日本経済は輸出産業主体に拡大致しました。そして所得倍増政策もあって、生活は飛躍的に向上したのであります。

住宅環境もステンレス流台、水洗トイレ、FRP(ポリ)浴槽、そしてダイニングキッチンと住宅改革が進行致しました。

国はより上質な住いを提供する目的で昭和三十年日本住宅公団を発足させ、東京北区の「にじが丘団地」を皮切りに都市型住宅団地の建設を開始致しました。

名古屋に於いても昭和三十五年に始まる鳴子団地、そして平針、相生山にも住宅公団の集合住宅の建設が始まりました。

一方名古屋市でも、市の住宅供給公社を設立、

土地区画整備事業を行い、島田黒石の丘陵に大型ブルドーザーを投入し、整地に着手したのは昭和三十年代末でありました。

　昭和三十四年の伊勢湾台風の大被害もあって、より高い地に安心安全な街づくりが求められ、昭和三十九年の新幹線開通、東京オリンピックの開催もあって一段と進んだ建設技術が力を発揮いたしましたが、その後二年足らずで産地を崩し、谷を埋めて地震を含む災害に強い鉄筋コンクリート造りの「高坂荘」「高坂センター」が完成したのは昭和四十一年でありました。そしてその年の秋から入居が始まったのであります。

小出　明美

広報高坂　平成２３年５月号

ご存知ですか・・

「高坂」の生立ち（歴史）を

―――パート５―――

昭和４１年に高坂荘、高坂センターが完成、その年秋から入居が始まりましたが、道路はまだまだに未舗装で、買物は一つ山の公設市場が主であったようでございます。

其後、引続きその周りには、分譲住宅が建設され、保留地は土地分譲がなされ周辺道路も舗装されました。店舗も高坂センターの商店に加えて、中央フードセンター、島田商店街、大型スーパーサンフード島田店

（現サンビレッジフーズ）が進出致しましたのは、昭和４４年からであります。
現在の黒石、久方地区も昭和４６年頃より民間主体の土地整備と分譲住宅の建設が進行、平成１０年頃にようやく一段落致しました。
名古屋市の合併は昭和３０年（1955 年）４月に行なわれ、天白村は昭和区天白町となり、当地名は「島田黒石〇〇番地」と称されました。昭和４０年代、高坂につづき大根、御前場に団地が形成されるのに伴い、周辺人口は急増、昭和４２年４月、天白小学校高坂分校が設立され、２年余り後の昭和４４年９月、高坂小学校の開校、独立致しました。その間、児童数は約４倍の７１２人となりました。その後も児童急増の流れは止まらず、プレハブ校舎等で対応せざるを得ず、大根、御前場地区に昭和４７年４月しまだ小学校、更に昭和５０年４月相生小学校が設置され、マンモス校高坂小学校より分化独立して、現在に至っております。

小出　明美

広報高坂　平成２３年６月号

ご存知ですか・・

「高坂」の生立ち（歴史）を

－－－パート６－－－

４、天白区の独立から現在－天白区の誕生－

名古屋市昭和区への合併より僅か２０年、急増する人口、大学の開校も相次ぎまして急発展致しました。

昭和５０年２月（１９７５年）天白町は昭和区より分離独立して天白区となり直ちに島田の地に区役所が設けられました。

その立地は、市の都市計画により近くを地下鉄が通る予定でありましたが、諸々の事情がありまして、その後現在の鶴舞線ルートに変更されたとのことでございます。高坂を含む島田住宅とを結ぶ交通機関は島田一つ山発、八事、今池経由名古屋駅行の市バスが昭和３３年末に開業予定の路線に依存しておりましたが、昭和４５年１０月に一つ山と名鉄神宮前行が、昭和４９年５月から島田

住宅と新瑞行が、更に地下鉄鶴舞線が昭和５３年１０月に開通致しました。

　そして地下鉄原を起点とするバス路線が更に拡充され南行路線は殆んど大根荘バス停を経由し利便性は飛躍的に向上しました。

　いよいよ佳境に入ってまいりました。「高坂の生立ち」是非お楽しみ下さい。

小出　明美

広報高坂　平成２３年７月号

ご存知ですか・・

「高坂」の生立ち（歴史）を

－－－パート７－－－

　高坂学区の生立ちにつきましては、これまでに様々にご紹介ご案内させてまいりましたが、つまり無から有への開発団地でもあります。それ故に過去とのしがらみはなく、他の街の町内会自治会にみられる寺杜等とのつき合いもなく、又、信教・政治は個人の問題として全くフリーでありまして、自治会活動にはその介入を許されておりません。

　しかも高坂の自治会活動は市内でも有数の活発な学区と云われておりますが、反面自治会町内会費は最低水準でもあります。

　高坂学区は、しまだ、相生の分離独立により面積は最も小さく、人口密度は天白区一高いのです。しかも高齢化は６５歳以上の方が４０％近く占めておりますのが現状です。

　安全で安心な町づくり活動、又、天白区でも犯

罪の少ない、火災も少ない学区として、他からも注目評価されております。

※次回はこれまでのご案内に学区の皆様方からお寄せ頂きましたご質問等にお答えさせて頂きます。

小出　明美

広報高坂　平成２３年８月号

ご存知ですか・・

「高坂」の生立ち（歴史）を

－－－パート８－－－

　初回よりご愛読頂きました方からの要望もありまして、次の通り追加ご紹介させて頂きます。

〇高坂地名の由来

　当地域は名古屋市への合併により、昭和三十年の昭和区天白町島田字島田黒石に始まり、丘陵地に大規模団地が造成されました。高地にあるので市は市営住宅高坂荘を命名、開設された天白小学校高坂分校にも高坂が使用されたのであります。その後の地番変更に伴い高坂町となりました。

　黒石は前述の地層から由来し緑黒石、平針黒石と区別する為に島田黒石となりました。

　久方は万葉の昔より和歌の枕詞（光など）に由来し、主として丘陵の南斜面に位置することから、この命名になったようであります

天白は神の宿る地を意味し、古代の人々が災害から神のご加護を願ったのに由来し、各地に存在しました。（天白の白は、伯、泊もあります）

豊橋南部の天白が原、伊勢神宮ゆかりの三重県にも多く存在しております。猿投山（南麓）に発する大河、天白川にちなみ、村、町、区と引き継がれたのであります。

※次回は「高坂からの眺望」についてご紹介いたします。

小出　明美

広報高坂　平成２３年９月号

ご存知ですか・・

「高坂」の生立ち（歴史）を

－－－最終回－－－

○高坂からの眺望

　松和花壇（前述）に当地区最初の開発の手が入ったのは、その眺望がすばらしい事が一因でもありました。眼下に植田、そして八事から東山への丘陵、そして猿投山（海抜６２９米）、はるか彼方には白銀の御岳（３０６７米）が晴れた日にはよく見えるのです。今でも竹内外科付近の路面から、又、高坂荘十七棟等の高層階からの眺めのすばらしいことをご存知でしょうか。そしてこの高層から目を西に転じますれば、天白川、山崎川の流れを、そして新瑞橋から名古屋港方面、養老山系とその奥に鈴鹿山脈、その北に伊吹山（１３７７米）がそびえ揖斐高原の山々がつらなります。特に秋から冬の雪を被った眺望を楽しまれたらいかがですか。

この様な場所は名古屋市内でも又とありません。又、標高の高坂地区での最高地点は、久方二丁目（豊田工大東側、交差点付近）で、ここは約８５米位で、晴れた日に一度ゆっくりと眺められては如何でしょうか。ちなみに名古屋市部最高地点は、東山植物園内お花畑上の展望台（１０２米)、実質は、守山区と瀬戸市境の東谷山（１９８米）でありますを付け加えさせて頂きますが、しかし眺望は高坂の方が一番でありましょう。

長きにわたりご愛読ありがとうございました。お気付きのことありましたら、コミセンまで紙面でご意見をお寄せ下さい。

小出　明美